

道立高等学校長庁内公募 令和4年度（ 中間 ・ 期末 ） 報告

学校（所属）名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道野幌高等学校	校長	壽 浅 章 洋	58	令和4年4月1日
<p>1 これまで取り組んできた改革 ※①～④は各項目ごとにリンクしています。</p> <p>① 《アンビシャス・スクール「ベーシック授業」による学び直し》 生徒から高評価を得たベーシック授業に関する評価・改善</p> <p>② 《新たな改革に向けた客観的データの収集》 地域を対象としたアンケート結果から本校の推進すべき教育活動の検討</p> <p>③ 《野幌アクションプランによる働き方の見直し》 コアチームによるプランニングと推進</p> <p>④ 《探究学習の抜本的な見直しに向けた検討》 アンビシャスのねらいを踏まえた、新たな探究プログラムの検討</p> <p>2 進捗状況及び成果</p> <p>① ベーシック授業終了後(7月)のアンケート調査から、生徒の満足度や達成感の高さがうかがえた。更に効果的な授業実践に向け、全ての教科で評価・改善を進めている。</p> <p>② 本校生徒の実態やアンケート調査の分析結果から、本校がこれから推進すべき教育の在り方について、HR・総合的な探究の時間運営委員会が中心となり検討を続けた。地域の多くの方々が望む身に付けてほしい力は、アンビシャス・スクールの真のねらいと合致すると考え、本校はキャリア教育を軸とした探究学習を推進することとし、令和6年度からの本格実施に向け、令和5年度中にコンソーシアム構築の準備を強力に進めることに決定している。</p> <p>③ コアチームが計画・推進している野幌高校アクションプランについて着実に実行されており、新年度に向けて計画の修正について協議が進められた。デジタル採点システムの実証実験に参画しているが、本格導入が実現出来た際は、更なる効果が見込まれると考える。</p> <p>④ 本校は、アンビシャス・スクールの最大の目標である「社会的・職業的自立」の実現のため、高校生活3年間で実施する一貫した探究学習プログラムの構築に向けて準備を進めている。探究学習プログラムは、キャリア教育を軸として推進し、生徒が主体的・能動的な学びの中から自己肯定感を高め、持続可能な社会を担う力の育成を目指すこととし、校長より令和5・6年度のグランドデザインを示し、説明することで全教員の意思統一を図った。また、学校教育目標の改定作業についても、教員の意見を反映させながら実施した。</p> <p>3 課題及び解決に向けた方策</p> <p>① ベーシック授業によって確実に生徒の生徒のモチベーションは向上し、基礎力診断テストの結果では、入学時(4月)よりも2回目(9月)の結果に若干ではあるが向上がみられた。しかし、夏季休業以降の後期における意欲低下が課題となった。生徒のモチベーションをどのように維持・向上させるかについて、各教科ごとに改善策の検討を進め新年度計画に反映させている。</p> <p>② 当初の校長計画では、令和5年度から改革の本丸を推進させるべく準備を進める予定であったが、アンビシャス初年度であることやフィールド制による授業の持ち時間の過多、履修と修得の分離に向けた検討や令和5年度からのインターンシップ準備(2学年全員)等による教員の多忙感を強く感じたため、進度を修正し令和5年の12月までを準備期間にすることにした。</p> <p>③ 本校の働き方改革コアチームによる計画の定期的な検討と修正をし着実に推進する。また、道教委による教職員の加配や時間講師配当の人的支援により、教員の多忙感は軽減され、充実したアンビシャスによる教育活動の実践が期待できる。</p> <p>④ 探究学習の内容や進捗計画は、委員会で慎重かつ大胆な検討を進めていく。 新たな探究プログラムの推進に向けたコンソーシアムの構築は、職業観の育成のため様々な分野のスペシャリストによる構成を考えているが、インターンシップ協力企業も組み込む予定である。また、CSに係る学校運営協議会の組織構成については、管理職で慎重に検討し学校にとって最高の支援体制とするため、核になる人物と相談しながら慎重な組織作りを推進する。 今後も、教職員による主体的・協働的な教育活動を実践できる組織マネジメントに努める。</p> <p>4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R6から実施する新しい学びに向けた探究計画を推進する。※先進的取組実践校への視察研修 ・ CSに向けた運営協議会の設立とコンソーシアム構築について、慎重かつ強力に推進する。 ・ 本校の進める教育活動について広く理解を求め、地域に向けて積極的に情報発信する。 ・ 働き方改革において、コアチームが策定した改革プランを確実に推進する。 				

